

校長室だより

国立市立国立第七小学校長 森田弘文

平成28年9月30日 NO.19(117)

『百の詩集』の取組について

国立第七小学校では、子供たちの言語能力を伸ばすために、これまで様々な取組みをしてきました。右の『百の詩集』という小冊子は、昨年度の中学年が取り組んできたものですが、今年度より、全校で実施することになりました。百の詩集より自分のお気に入りの詩を選び、『MY詩の活動』として、それぞれの学年の発達段階に応じて行うものです。

詩の学習を通し、言語の基礎的な能力の醸成（書く・聞く・話す）、自己表現に躊躇しない学級づくり、友達相互の関係づくり（互いに認め合う心）等が、活動の大きなめあてです。この学習活動は、国立第七小学校の特色ある教育活動の一つとなることでしょう。低・中・高学年と、取り組み方は一様ではありませんが、各学年・クラス毎に、様々な実践があるかと思えます。具体的な流れとしては、①知る・決める、②練習、③発表、④認め合い等となります。詩の取組の活動経験の有無による違いなどがあり、様々な展開方法が予想されますが、ともかく、現状としては、まずは、「始めてみよう！出発してみよう！」という段階です。どうか、長い目でじっくりとご覧頂き、ご協力とご支援をお願いする次第であります。

なお、先日の全校朝会の折には、4・5年生の有志による詩の発表がありました。右の写真は、その時の堂々とした活動の様子です。自信をもって一生懸命に発表している姿がとても立派で、会場の子供たちも真剣に聞き入っていたのがとても印象的でした。



狂言の鑑賞を通して

9月29日（木）、体育館にて文化庁事業「平成28年度文化芸術による子供の育成事業—芸術家の派遣事業」として、「能楽師狂言方大蔵流 大蔵教義氏」により狂言ワークショップが行われ5・6年生が参加しました。まず、狂言の歴史の話や「柿山伏」実演、お話に登場する人物、動物、精霊などの紹介や実技（衣装や試着や動作・台詞をやってみよう！）、そして、質疑応答、ふりかえりシートの記入など、たくさんのプログラムにより、日本の伝統芸能の奥の深さを体験を通して知ることができました。講師の大蔵教義さんのユーモアたっぷりの楽しいお話もあり、子供たちは大満足の様子でした。初めて触れる世界に驚きと感動をもって多くの事を学ぶことができた、大変貴重なひと時でした。

